



たくさんの「ありがとう」と「笑顔」が集まる学校



令和7年 2月28日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.30

問題解決と問題解消について

前号では「抱える」から「手放す」ということについての話でした。その中で問題解決ということを経験としてあげましたが、今号では問題解決や解消ということについて考えてみます。

「問題」という言葉は色々な意味を含んでいて、クイズや計算などの実力を試したり、練習したりするための「問題」(①とします)や問題提起や学習課題のように解決すべき事柄に対しての「問題」(②とします)や家庭の問題とか問題行動のようにちょっと面倒というかやっかいなことに對しての「問題」(③とします)などがあります。近年、問題解決学習や問題解決的な学習というように問題を解決するための探究学習は②の問題を扱うことが多いのですが、その培った力が③のような問題を解決することにつながるかというと必ずしもそうとは限りません。そこを一緒に考えてしまうといつまでたっても解決に至らないことに對して心を痛めたり、心が疲れてしまったりして悩みなどを残すことになります。

とくに③などの問題を抱えてしまったときに生きてくるのが「折り合い」です。折り合いというのは自分だけの解決を求めるだけでなく、相手の解決についても耳を傾けて、ちょうどよいところを探すことが大切になってきます。

とはいえそれがなかなか難しいのですよね。相手の解決のための提示が0か100かと言われてたらそこに妥協点を見いだせないことはあります。状況もですが相手というのは色々あるわけでそれが親と子、教師と児童、保護者と学校、地域と学校、同僚と同僚となることでまた変わってきます。解決の仕方というの色々な方法がありますが、折り合えないというときに全く解決できないときはどうしたらよいのでしょうか。そのときは

㊲見方考え方を变えて「問題」を捉えなおして「問題」と受け取らずに解消させる

㊱問題そのものから離れて時間も含めて解消させてしまう

という方法も考えられます。これが前号で言っていた「手放す」にも関連するところです。㊱の視点で行くと解消はしても解決はしないかもしれませんが悩みとしては消える可能性はあります。しかし、時間が経って自分の前に姿を変えて「同じ問題」としてあらわれることも考えられます。㊲の視点でいくとすでに自分の中で変化を起こしているので姿を変えて「同じ問題」としてはあがってこないかもしれません。

いずれにしても折り合いがつけられることが大切ですが、どうしても解決が難しいと感じたときは解消ということも視野に入れながら悩みを小さくして心を整えられたらと思います。



見方考え方をどう変えたら問題は解消されますか？